

令和4年度 東京都高等学校ハンドボール秋季大会  
兼 全国高等学校ハンドボール選抜大会都予選  
新型コロナウイルス感染症拡大防止ガイドライン

## 1. はじめに

東京都高体連ハンドボール専門部では標記大会を実施するにあたり、新型コロナウイルス感染拡大の防止を目途として、以下のガイドラインを定め、それに基づいた実施および運営を行います。

## 2. 全般的な事項

- ① 大会に参加する全ての者（選手・役員・トレーナー・大会関係者等会場内に入る者）は、競技中の選手・審判以外は不織布のマスクを着用すること
- ② 全ての大会参加者（出場チームおよび大会関係者を言う、以下同じ）は、大会期間中および大会参加前1週間以内から大会終了後1週間以内までの期間において、新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、東京都高体連ハンドボール専門部に対して速やかに報告し、指示に従うこと
- ③ チームとは出場登録選手、監督、コーチおよび引率者だけでなく、日頃の活動等を同一とする出場登録選手以外の部員、マネージャーおよびチーム関係者（トレーナー等）も含む
- ④ 大会関係者とは、役員、審判員、補助員、東京都ハンドボール協会、報道機関等、会場入場を許可された全ての者（大会関係者に出場チームは含まない）
- ⑤ チーム内に1名以上の新型コロナウイルス感染症対策責任者（引率責任者、監督やコーチ等でも可）を置き、高体連専門部、保健所、保護者等との連絡調整を担うとともに、チーム内での感染者対応や感染防止対策徹底の役割を担うこと
- ⑥ 観客については当面、無観客（学校関係者・保護者・一般客入場不可）とする

## 3. 大会参加時の申合せ事項

- ① 試合の引率責任者は、顧問または学校長が認めた者に限る
- ② 引率者を含めて、参加者が以下の事項に該当する場合には、参加校の責任において当該者の参加を見合わせる事

- |   |
|---|
| <p>(ア) 体調がよくない場合（平熱を超える発熱、咳・咽頭痛、強いだるさ・息苦しさ、嗅覚・味覚症状の異常、体が重く感じる、疲れやすいなどの症状がある場合）</p> <p>(イ) 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触があった場合</p> <p>(ウ) 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合</p> <p>(エ) 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間が必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触があった場合</p> |
|---|

- ③ 引率責任者を含む、参加者全員（選手、マネージャー、控え選手を含む）は「令和4年度東京都高等学校体育連盟主催事業における参加同意書」（別紙1）内の「健康管理チェックシート」に基づいて健康状態を確認し、別紙1を引率責任者に提出すること

- ④ 提出された別紙1は所属校で1か月以上保管すること
- ⑤ 参加チームは試合会場に来場する役員、選手、控え選手、マネージャーなど、参加者全員を載せた「来場者名簿」（別紙2）を作成し、引率責任者が会場主任に提出すること
- ⑥ ウォーミングアップ時や試合中以外は不織布のマスクを着用すること（※試合中でもベンチの役員・選手は不織布のマスクを着用する）
- ⑦ 身体接触を伴う競技特性を理解し、ハーフタイムや競技終了後に洗顔、うがい、手洗い、手指消毒をするなど、感染防止に努めること
- ⑧ コート脇での応援は発声せずに拍手のみで行うこと（会場内での大声での会話も控える）
- ⑨ 試合終了後はミーティングや反省会を行わず、速やかに会場から退出すること（他チームの応援や他チームの試合を録画するために早めに来場することや会場に残ること等も禁止）
- ⑩ 試合会場での食事は禁止
- ⑪ ゴミは全て持ち帰ること
- ⑫ 試合終了後1週間以内に来場者が新型コロナウイルス感染症を発症した場合、各チームの新型コロナウイルス感染症対策責任者は速やかに競技委員長 村松（090-1849-6775）まで報告する
- ⑬ 手指消毒用の備品などは各チームも用意すること

#### 4. 大会運営

- ① 受付場所等
  - (ア) アルコールなどの手指消毒剤を用意する
  - (イ) 参加チーム引率責任者から「来場者名簿」を受け取る（競技委員長が1ヶ月程度保管する）
  - (ウ) 更衣室を使用する際には、入退室の前後に手洗いをするように伝達する
- ② 手洗い場所には石鹸を用意し、「手洗いは30秒以上」と掲示する
- ③ 洗面所・女子更衣室
  - (ア) 複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブなど）については適宜消毒を行う
  - (イ) 換気扇を常に回すなど、換気に配慮する
- ④ 役員、審判員、補助員については以下のことに注意すること
  - (ア) 選手、チーム役員を含めて相互に握手などを行わないこと
  - (イ) 競技終了後は備品の消毒だけでなく、洗顔、うがい、手洗い、手指消毒をするなど、感染防止に努めること

#### 5. 感染者、濃厚接触者または感染疑い者となった場合の対応（出場チームおよび大会関係者の参加判断基準）

- ① 感染者の参加は認めない
- ② 濃厚接触者の参加は認めない
- ③ 感染疑い者（体調不調者）の参加は認めない
- ④ 感染疑い者は、体調不調が解消された後、薬剤を服用しない状態で2日以上経過し、かつPCR検査または抗原定量検査（以下「PCR等検査」という）で陰性判定された場合、または医師により感染者である可能性が低いと診断された場合において参加可能とする
- ⑤ PCR等検査の判定結果の猶予期間は、（競技日程の違いによる不公平を避けるため）大会参加

日の第1試合の試合開始時間までとする

- ⑥ 大会関係者においては、大会期間中における感染者、濃厚接触者または感染疑いの者は参加を認めない

## 6. 感染者、濃厚接触者、感染疑い者、接触者（要観察者）の定義

### (ア) 感染者

- ・ PCR 検査（LAMP 法、TMA 法も含む。※以下同じ）、抗原定量検査または抗原定性検査で陽性と判定された者
- ・ 感染者の発生日とは症状が出始めた日とし、発症日が不明な場合は陽性と判定された検体採取日とする

### (イ) 濃厚接触者

- ・ 濃厚接触者は所轄保健所の判断による

（参考）患者の感染可能期間内（発症日の2日前から、診断後に隔離などをされるまでの期間）に、接触した者のうち、次の範囲に該当する人とされています。（国立感染症研究所「積極的疫学調査実施要領」より）

1. 患者と同居、あるいは長期間の接触（車内、航空機など）があった人
2. 適切な感染防護なしに患者を診察、看護もしくは介護した人
3. 患者の気道分泌液もしくは体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い人

※その他、手で触れることのできる距離（目安として1メートル）で、必要な感染予防等（マスクなど）なしで15分以上接触があった人（周囲の環境や接触の状況等個々の状況から患者の可能性を総合的に判断する）

- ・ 濃厚接触者の発生日とは感染者と接触した日とする。（複数日の場合には大会に最も近い日）

### (ウ) 感染疑い者

- ・ 発熱（37.5℃以上）や風邪症状（咳、のどの痛み）、だるさや息苦しさ、味覚や嗅覚の異常など健康チェック表シートにおけるチェック項目該当者または会場内の医師（看護師）により体調不調を認められた者を感染疑い者とする。ただし、健康チェック表シートにおけるチェック項目該当者であっても、次の①②に該当するものは除く
  - ① 医師や保健所等により感染者である可能性が低いと診断された場合
  - ② 全チェック項目のうち「同居家族や身近な知人で感染が疑われる方」のみの該当者であり、かつ感染が疑われる同居家族や身近な知人が以下のa～cの場合
    - a PCR等検査により陰性と判定された場合
    - b 医師や保健所等により感染者である可能性が低いと診断された場合
    - c 症状発症（発症日は含めない）の2日前から7日後までの期間に感染が疑われる同居家族や身近な知人と接触していない場合
- ・ 感染疑い者の発生日とは、健康管理チェックシート（別紙1）のチェック項目に該当があった日または医師（看護師）により体調不調を認められた日とする（複数日の場合には大会に最も近い日）。

## 7. 参加者の中に感染が判明した場合の対応

- ① 会場にいる間に発熱などの症状を訴える者を確認した場合は、保護者に連絡し、帰宅させる
- ② 試合終了後に参加者の感染が判明した場合
  - (ア) 感染者の所属する学校や行政機関の指示に従う
  - (イ) 当該チームの引率責任者は速やかに主催者（専門部）に報告する（競技委員長で構わない）
  - (ウ) 専門部は、感染者が参加した試合当日に会場内にいた濃厚接触が疑われる大会参加者すべてに連絡する
  - (エ) 危機管理マニュアルに従って速やかに事故報告書を作成し、高体連事務局に報告する
  - (オ) 感染者と対戦したチームの出場者は、感染者と接触した日を0日として6日目に症状がない場合には次試合の参加を可能にする（競技日程が連続する場合には専門部の指示に従う）
- ③ 本ガイドラインを違反したり、試合前後の感染者・濃厚接触者などの報告を怠ったりした場合には、該当するチームの次大会への出場について専門部で審議を行う

以上